



JHeC2023 授賞式の様子
荒川信行さん

「細胞で未来を変える」

白血病治療に向けた次世代の細胞治療製品の開発

ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト (JHeC)
2023 ビジネスコンテスト部門でグランプリを獲得された

セレイドセラピューティクス株式会社
荒川信行 (あらかわ のぶゆき) さんに、
コンテストに応募した当時の状況や現状に
ついてお話を伺いました。

Q 「JHeCを知った背景、応募したきっかけ、JHeCへの期待感について教えてください。」

JHeCを知った経緯としては、アクセラレーションプログラムなどのイベントに参加する中で、他の参加者から教えてもらったり、アクセラレータプログラムから届くメール案内で知ったりしたのが最初のきっかけでした。応募したきっかけは、我々の事業における大義や社会への貢献について認知してもらいたいと考えたからです。弊社は、造血幹細胞を用いて再生医療等製品を作る事業なのですが、造血幹細胞は特殊な細胞で、国内では規制が多く製品化を進めるためには社会への周知ができればという思いで応募しました。

また、経産省主催のイベントであるため、自社の信頼感が高まるという点も期待していました。あとは、VC等からの資金調達や、大手グローバルファーマとの商談などの機会を多く獲得することにも繋がるのではとも期待していました。

Q「本事業を立ち上げようとしたきっかけをお教えてください。」

造血幹細胞を体外で増幅するという事はこれまで困難とされてきました。その中で、2019年に東大医科学研究所の山崎先生と中内先生のチームが、体外で造血幹細胞を増殖できるという画期的な技術を確立されたんです。当初はマウスの造血幹細胞を増やすという結果でしたが、その後、ヒトの造血幹細胞も増やせるという基礎的なデータが得られました。

私自身、かねてより臍帯血のような出産時の医療廃棄物を有効活用するということに関心を持っていて、造血幹細胞を増殖できる技術の登場によって、より新しい次世代の製品開発に繋がられるという大きな期待感を持ちました。こうした経緯から、アカデミアの先生方と共同で事業を立ち上げ、社会実装したいと考えたのがきっかけです。

Q「これまでは、なぜ体外で造血幹細胞を増殖することが難しかったのでしょうか？」

造血幹細胞は血液の素となる幹細胞であるため、これまで多くの科学者が造血幹細胞の増殖に挑戦してきました。しかし、造血幹細胞は増やす過程で他の細胞に分化してしまうため、幹細胞として未分化状態を維持しながら増幅させることが難しいという課題がありました。

Q「本事業を立ち上げる際、大変だったことや大きな課題としてどのようなものがありましたか？」

また、それらの課題をどのように乗り越えたのでしょうか？」

事業という観点では、2019年末から会社設立の準備を開始しましたが、他の共同創業者はアカデミアの先生であり、ビジネス側のメンバーが自分だけでした。そのため、会社の設立やメンバー集め、事業計画の検討、資金調達などをいかに効率よく推進するのかを意識していました。また、2020年にコロナのパンデミックが発生してしまい、会社立ち上げ時に必要な様々なアクションを取りづらくもなっていました。

そのような中で、会社を設立して、メンバーを集め、事業計画を立てて、資金調達をするという一連の活動において、各分野で相談できる協力者を得ることが重要だと思っています。弊社は東大発ベンチャーであるため、設立前から東大IPCに相談していました。東大IPCでは「ファーストラウンド」というアクセラレーションプログラムを実施しており、コロナ禍でも予定通り開催すると聞いたので、活動をスピードアップさせるために応募をしたところ、幸運にも採択していただくことができました。

これにより、事業計画の壁打ちやVCの紹介などの支援を受けることができ、コロナ禍でも各ステークホルダーとコミュニケーションを取りながら最終的に会社を立ち上げ、資金調達まで進めることができました。

Q「グランプリを獲得されて、周囲からの反響はいかがでしたか？」

製薬企業、バイオテック系の企業、VCに弊社を知ってもらえたというのを感じています。また、グランプリ受賞後、多数の商談の機会も獲得することができました。

Q「JHeCに参加されて、参加前には意識していなかった良かった点があれば教えてください」

JHeCは特にプレゼン審査の場がしっかり用意されていて非常に良かったと思います。特に最終審査会は大きなホールで緊張感がありつつ、審査員との質疑も用意されており、オーディエンスも多くいます。こうした中で、自分たちの技術やビジョンを的確に伝えるため、自分たちの事業について何を伝えるべきか、何を知ってほしいのかを見つめ直すいい機会になったと感じています。

Q「受賞から数か月たち、事業はどのように進展していますでしょうか？」

JHeCでは、白血病治療に向けた次世代の細胞治療製品について、米国で展開するといった内容でプレゼンさせていただきました。その後、白血病以外にもパイプラインを拡充し、米国だけでなく日米での製品化を目指し事業を進めています。

Q「今後、どのように事業を展開しようとお考えでしょうか？」

今後の事業展開については、白血病に加え、他の血液がんや血液がんではない血液免疫疾患に対する様々な再生医療等製品を開発したいと考えています。

弊社の技術は、血液の源である造血幹細胞を増殖する技術であるため、造血幹細胞を弊社の技術で増やし、他の成熟細胞に分化させる応用や、創薬スクリーニングへの応用など、様々な用途で活用することが期待できます。このように他の細胞モダリティ製品として応用することも可能であるため、関心のあるバイオテック系企業へ技術導出することも視野に入れたいと思っています。

Q「JHeC2024参加者を検討されている方々へ、最後に一言お願いいたします。」

JHeCに参加することで、知名度や信頼度が大幅に向上しますし、様々な人とのネットワークを獲得できるので、ビジネスの機会を作るのに有効だと思っています。ぜひ参加してビジネスに活用していただけたらと思います。

JHeCのグランプリを受賞できたことで、他の企業と会話する機会は本当に実際に増えています。また、他の会社が弊社を事前調査する際に必ず「JHeCグランプリ受賞」という情報が出てくるため、非常にポジティブな材料になっていると感じています。

また、弊社はテクノロジー系のベンチャー企業であるため、技術の信頼性・有効性が重要になります。企業に技術をまず試していただくためには信頼性が必要になりますが、由緒あるコンテストであるJHeCでグランプリを獲得できたというのは、話を進めるきっかけの一つになると考えています。

荒川さん、ありがとうございました。

最後にコメントいただいたように、

ご関心のある方はぜひお気軽にご応募いただけたらと思います。

皆様からのご応募、お待ちしております！
